

オール沖縄・日本共産党衆議院議員 沖縄1区選出

あかみね政賢 国会だより

月刊 No.13

【九州沖縄ブロック事務所沖縄分室】
〒900-0016 那覇市前島3-1-17
電話.098-862-7521 FAX.098-862-7735

【国会事務所】〒100-8981 千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1107号室
電話.03-3508-7196 FAX.03-3508-3626

岸田文雄首相は総裁任期までの改憲を表明し、自民党は憲法審査会で9条改憲を繰り返し主張しています。赤嶺政賢議員は、国民は改憲を求めておらず、憲法改正原案の発議を任務とする審査会は動かすべきではないと主張。憲法9条を生かした平和外交こそ求められていると強調し、改憲策動と厳しく対峙してきました。



憲法審査会で発言する赤嶺議員

「衆院憲法審査会 改憲策動と対峙 憲法蹂躪の沖縄の現実」に変えるべきか

自民党に改憲を語る資格はない

今国会は、冒頭から自民党の裏金問題が大きな焦点となつています。早期に審査会を動かそうとする自民党に対し、日本共産党や立憲民主党は裏金問題の全容解明こそ必要だと主張。国民の強い批判を前に、自民党は4月4日に裏金議員の処分を公表するまで審査会を開くことができませんでした。赤嶺議員は4月11日の審査会で「議会制民主主義の土台をふみにじってきた自民党に改憲を語る資格はない」と厳しく批判しました。

岸田政権が安保3文書に基づき、敵基地攻撃能力の保有や次期戦闘機の輸出、沖縄へのミサイル部隊配備、空母や港湾の軍事利用拡大など、憲法破壊の大軍拡を進めていることも重大です。赤嶺議員は「現実の憲法破壊を放置することは許されない」(同11日)、「東アジア地域の軍事的緊張を激化させ、憲法9条に真つ向から反する」(同18日)と批判しました。

憲法に反する現実を正す議論こそ必要

赤嶺議員は、憲法に反する現実を正す議論こそ必要だと主張。米軍基地が強化され、県民の人権がふみにじられている沖縄の実態を繰り返し提起してきました。民主主義も地方自治も無視する辺野古新基地建設、事故原因も解明されないもとでのオスプレイ飛行再開、深夜・早朝の飛行を前提とした無人機MQ9やMQ4の配備、PFAS汚染をめぐる米軍の身勝手な立ち入り調査の拒否などを取り上げ、「憲法の原則が適用されない沖縄の現実を変えることこそ、私たち政治家の責任だ」(5月16日、23日)と主張しました。



2年生になつた孫は、大志を抱くようになった。高校を卒業したら、すぐにプロ野球に入団し、その次

は大リーグに入って、大谷選手の記録を破りたいという▼プロ野球のテレビ中継にも夢中だ。朝起きたら新聞をとつてきて、朝刊を広げている。読むのは野球の記事だけ▼孫を名選手に育てるため、国会からもどつた日曜日の早朝、じーじが孫のバッティング投手をつとめる▼球はやわらかいテニスボール。ホームランもでる。じーじの体力が続かない▼少年の大志を実現するためには、じーじももつと体力をつけなければと、ラジオ体操に励んでいる今日この頃だ。

この間の活動

- 宇栄原自治会総会に出席。たまき武光県議の演説会で挨拶(4月28日)
- とぐち修県議、上原トクイチロー県議予定候補の女性のつどいで挨拶(同29日)
- 第95回メーデー沖縄県集会で挨拶(5月1日)



- 県憲法普及協議会主催の憲法講演会に参加(同3日)
- 日弁連・弁政連と日本共産党の定例懇談会に出席(同9日)
- 全国基地爆音訴訟原告団連絡会議等が主催したオスプレイの配備撤回を求める院内集会に参加(同10日)
- ニシメ純恵県議、上原トクイチロー県議予定候補、たまき健一郎県議の決起集会・激励会で挨拶(同11日)
- たまき武光県議の決起集会で挨拶(同18日)
- とぐち修、セナガ美佐雄各県議の決起集会で挨拶(同19日)
- 辺野古住民訴訟の上告断念をうりずんの会5人そろって政府に要請(同23日)
- 比嘉みずき県議、儀保ゆい予定候補の決起集会で挨拶(同25日)



声援に応えるトクイチロー予定候補や赤嶺議員ら

5月11日、糸満市で開かれました。集会には、赤嶺政賢衆院議員のほか、玉城デニー知事、伊波洋一、高良鉄美

市民の会の共同代表の大城規子さんは「ノブ子県議がつないだ平和の議席はトクイチローに確実にバトンをつなげていく」と訴えました。

ノブ子県議がつないだ平和の議席を上原トクイチローにバトンをつなぐ

6月16日投票の県議選で玉城ノブ子県議の議席を引き継ぐため、猛奮闘する上原トクイチロー決起集会が

両参院議員、糸数慶子元参院議員、他党の市会議員や市役所OBなど党派を超えた弁士が勢揃い。39年間の行政マンとしての手腕に期待する声や、沖縄戦最後の激戦地となった糸満から平和への願いと決意の発言が相次ぎました。

国政と県政をつなぐ(6)

渡久地修 県議(団長)に聞く



渡久地修県議

県議会議員4期16年、県議(団長)として取り組んだ案件や実績

① 沖縄21世紀ビジョンに

「基地のない平和な沖縄をめざす」と明記させた②2015年7月に翁長県政与党で辺野古に「県外から土砂を持ち込ませない」条例を制定③対話外交で平和を構築する④県独自の地域外交を推進⑤子どもの貧困対策を高齢者のバス・モノレールの割引の検討を約束させた⑥32軍壕の調査に入り、県が保存公開を打ち出した、ことです。

赤嶺政賢衆院議員と力を合わせて取り組んだ案件や実績

赤嶺議員と一緒に政府要

5期目をめざしての決意など聞かせて下さい

沖縄が戦場になるのをくい止めなければならぬ。玉城デニー県政を支えるためにも、7名全員当選をかちとる決意です。

国政と県政をつなぐ(7) 比嘉瑞己 県議(幹事長)に聞く



比嘉瑞己県議

よる汚染問題では、実態調査を要求しています。

赤嶺政賢衆院議員と力を合わせて取り組んだ案件や実績

うるま市への自衛隊訓練場問題では、赤嶺議員と現地調査に入り、国会でも取り上げてもらい、党派を超えた運動を推進、政府に断念させました。

4期目をめざしての決意など聞かせて下さい

「戦争する国づくりをさせない」、「沖縄を戦場にさせない」—今回の県議選での大きな争点であり、共産党7名全員当選とオール沖縄の前進をかちとる決意です。